

## 平成25年度「おそきの学校と地域を考える会」(以下、考える会)の活動紹介

小曾木地区の子どもの数の減少により、地域の核となる第七小学校、第六中学校の児童、生徒数が大幅に減少しています。1学年20名を下回ってきている状況の小曾木地区の未来に危機感を持って開始されたこの「考える会」も3年目を迎え、現在、第6支会の正副会長を含む会員数36名での活動に広がってきています。「考える会」の今年度の事業計画を紹介します。

### おそきだよりの発行に関する事業

#### 1. 「おそきだより」を年4回発行します。

小曾木地区全戸配布とし、1,700部発行しています。この事業は経費削減のため編集等の原稿作成は全て「考える会」が行い、印刷のみを印刷会社が実施しています。それでも1回の発行に6万円程度が必要になってはいますが、自治会第6支会と連携し、「東京都地域の底力再生事業の助成」を第6支会が受けて今年度は発行できています。

#### 2. おそき一斉メールの配信を実施しています。

地域情報を週1回程度、また、緊急時に地域情報を登録された方に無料でメール配信しています。下記アドレスに空メールを送ると登録できます。



[osokinogakkou@gmail.com](mailto:osokinogakkou@gmail.com)

#### 3. ブログで地域情報の発信をしています。

「おそきだより」よりも詳細で早い情報の発信となっています。[おそきの学校](#)で検索できます。

今年度の後半では、過疎化対策としての空き家の状況確認も行います。小曾木地区には50軒を上回る空き家があると言われてはいます。その状況は様々と思われそうですが、青梅市住宅課や不動産業者と協働して人口吸引の可能性を検討します。

オリンピックの東京誘致最終プレゼンテーションで日本国民に気付かせてくれた日本の素晴らしさと自信を持つことの大切さ。

小曾木地区にも同様にアピールすべき点を感じます。自然に恵まれた静かな環境、低費用で得られる家庭菜園可能な住宅、温かく迎える入れる地域性、少人数クラスで目が行き届く教育、自宅から50分で池袋(飯能駅特急利用)に到着できる青梅で都心に最も近い環境、供用された下水道など。すでにそんな環境を求めて小曾木地区、成木地区に住み始めた若者も居ます。アピール方法も含め検討します。

### おそきみんなで元気プロジェクトに関する事業

「青梅市市民提案協働事業」として、

- ・高齢者の地域参加の促進、高齢者単身世帯への対応として市民センター等において多世代交流ができる居場所作り
- ・過疎化対策としての空き家の状況確認などを青梅市との協働で進めています。

5月18日に小曾木市民センターで開催された「小曾木っ子まつり」では、岩蔵温泉儘多屋、司翠館の協



送迎バスの運行

力で送迎バスを運行、また、地域の方に昔遊びコーナーを作っていただき、子ども達からご高齢の方まで楽しんでいただきました。



竹細工コーナー

実施にあたっては、小曾木地区にある4つの高齢者クラブ(老人会)の方からお話を伺い、「おそきだより」への今後の記事の掲載、地域若者とのつながりの

希薄化に感じる寂しさ、会により会員減少が進んでいたり、60歳代前半の若手加入で活性化している状況がお聞きできました。今後の活動に活かして行きます。

### 1面表題脇のカワセミの写真

今年度は4回に亘り、富岡1丁目の乙黒地区に見られる野鳥にカメラを向け、多数の写真展に入賞されている富岡1丁目在住の山崎弘さんご提供の「乙黒地区野鳥の四季シリーズ」を掲載しています。

### 編集後記

朝晩、秋の気配を感じる頃となりました。秋以降も、学校や地域でたくさんの事業が行われます。今年の「おそきの学校と地域を考える会」では、青梅市市民提案協働事業「おそきみんなで元気プロジェクト」として、小曾木で行っている事業に送迎バスの運行をおこなっている事業もあります。

小曾木のこれからを考えると、さまざまな行事に、

住んでいる皆さん(特に若者)たちが、積極的に参加することで、沢山のひとと出会えますし、大きな盛り上がりになると思います。

また、今までやってきていた事が、時代の変化とともに、対応しきれなくなってきたとき、内容や方法など、よく考える時がきているのかも知れません。気軽に事業や行事に参加して、小曾木の学校や地域の事を少しでも考えて頂けたら幸いです。

(川鍋重美)